

新緑ニュース

病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

〒226-0025 横浜市緑区十日市場1-7-26
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271



男性の悩み解決します

泌尿器科 部長 佐々木 春明



2026年4月から横浜新緑総合病院に就職いたしました。泌尿器科の診療は前任の施設と同様ですが、大きく異なる点は、土曜日に男性更年期外来を開設しています。この特殊外

来は年齢を問わず、男性の機能障害（性欲低下、勃起障害、ペロニー病（陰茎湾曲症）、射精障害なども含みます）や昨今話題の「男性更年期障害」についても診療しています。更年期障害は女性特有のもではありません。男性にも更年期障害があることはマスコミなどにより、徐々に一般的になりつつあります。また、男性更年期障害の診療の手引きも整備され、治療法も確立しています。



土曜日に外来を開設するメリットは、世間では週休2日が一般的になりましたが、土曜日に自分の時間を持てる方、特に前記疾患として多くの方が該当する会社員にとって、「土曜日なら会社を休まずに済む」、「会社に届けを出さずに済む」など、大きなメリットがあります。土曜日に特殊外来を開設している医療機関が

無いため、当院を受診する患者さんは、遠方の関東圏からも来院されています。



男性にも更年期障害がありますが、「仕事や家事の疲れ」、「年齢」のせいにすることが多いことが知られています。男性更年期障害の症状は、不眠、イライラ、発汗、寝汗、心理的圧迫感、負担感など、多彩な症状がみられますが、

これらの症状は女性の更年期障害の症状と全く同じです。そのため、家族から受診を勧められて受診する方も増加しています。

通常行う検査は、問診と血液検査になります。検査当日には結果が出ませんが、翌週以降で結果に対する対応する治療法を相談することになります。



侵襲的な検査や羞恥心を心配する検査はありません。

世間では男性更年期障害が徐々に認知されてきましたが、「男性の不調」を少しでも自覚した時には、不調の原因を一度検索してはどうでしょうか？ 詳しくは当院のホームページをご覧ください。



泌尿器科
QRコード

しんみどりんからの一言

「夏は尿路結石にも注意」

汗をかく季節は体内の水分が不足やすく、尿が濃くなることで尿路結石のリスクが高まります。こまめな水分補給を心掛けましょう。



災害時、我々医療機関が果たさなければならない役割があります。東日本大震災や能登半島地震のような遠隔地での災害であれば、DMAT や DICT の派遣を含めた支援が必要になります。もし緑区で発生したら、皆さんは病院に何を求めますか？

災害発生時には、すべてのインフラが破壊されます。電気、ガス、水道、電波などの、いわゆるライフラインと呼ばれるものが壊滅的な被害を受けます。ここは行政の担当となり、いわゆる避難所対応が中心になります。そして発災後に発生する健康上の課題は、各避難所に配置される地域医師会が主体的に動くことになります。



では、病院は？

横浜新緑総合病院は、残念ながら構造上の問題があり、現状では災害拠点病院にはなれません。緑区内には災害拠点病院がないので、緑区内で発生した傷病者は、お隣の青葉区の昭和大学藤が丘病院、旭区の聖マリアンナ横浜市西部病院、港北区の横浜労災病院に搬送されることになります。

緑区は、空白地域なんです。

ということは、災害拠点病院ではなくても、緑区で発生した傷病者は、横浜新緑総合病院が、他区の災害拠点病院に代わって対応することになります。そのためには、災害発生時の本部機能の拡充、院外情報の入手や医療者を確実に確保するための総務班、傷病者の治療や転院搬送などの医療行為を管理する医療班、医薬品や医療機器を管理する物資調達班、病院の施設管理をつかさどる施設班の4部門が、しっかりと訓練を受け、対応していく必要があります。

DMAT 隊の整備、地域と連携した災害訓練の実施、医療材料や食料品の備蓄など、地域の基幹病院としての役割をしっかりと果たすために、一歩ずつ準備を進めていきたいと思っています。

部署紹介

病理検査室

当病理検査室は、患者さんから採取された組織や細胞を調べることで、病気の診断や治療方針の決定を支えている部門です。当院の病理検査室は臨床検査技師のみで構成されており病理医がおりませんが、誠警会病理センターの医師・臨床検査技師と密に連携することで、正確で迅速な病理診断が届けられるようにしています。

病理検査室の主な業務は以下の3つに分けられます。

【病理組織検査】

手術時や内視鏡時に採取された組織を、切り出し・薄切・染色して標本作製します。作製した標本は病理医が顕微鏡で観察し、病変の種類や広がり、良性・悪性の診断をしています。

【病理細胞診検査】

子宮頸部・体部、喀痰、尿、体腔液などから採取した細胞をプレパラートに載せて標本作製します。出来上がった標本を顕微鏡で観察し、悪性細胞の有無などを調べます。良性・悪性の判定や治療効果判定などを行う検査です。

【術中迅速病理診断】

手術中に提出された検体から素早く標本作製し、診断を行います。その結果は速やかに手術室へ伝達され、切除範囲や術式の決定など、手術方針の判断に活用されています。

病理検査室は、院外の病理医とも連携しながら質の高い医療の提供を行っています。



WEB 版みんなの健康講座 ※オンライン配信

病気や健康に関する情報を発信しています。Web 版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン(QRコード)からいつでもご視聴いただけます。



発行
地域医療
連携室